

(7) 植物群落の種類

山地を中心に実施した植生調査の結果、確認した植物群落を解析した。

なお、山地は大部分が植林帯だが、沢沿い、岩稜地などでは自然林が見られる。植林地には炭焼き釜跡が残っていることから、かつては落葉樹が多かったと考えられる。

① 群落群集の種類

環境省統一凡例（植生区分・大区分一覧表）及び「東京都現存植生図 2007 年版」の凡例を参考に、あきる野市の実情に照らし合わせ分類表を作成した。

群落群集分類表

大区分		小区分	
落葉広葉樹林		イヌブナ群落	モミ-イヌブナ群集
	落葉広葉樹二次林	ミズナラ群落	ミズナラ-クリ群集
	山地溪谷林	サワグルミ群落	シオジ-ミヤマクマワラビ群集
	山地溪谷林	フサザクラ群落	フサザクラ-タマアジサイ群集
	河畔林	ケヤキ群落	ケヤキ-イロハモミジ群集
	落葉広葉樹二次林	コナラ群落	コナラ-クリ群集
		常緑広葉樹の多いケヤキ林	シラカシ群集-ケヤキ亜群集ヤブソテツ変群集
	落葉広葉樹二次林	クヌギ群落	コナラ-クヌギ群集
	河畔林	オニグルミ群落	
	河畔林	タチヤナギ群落	
	低木林	ヌルデ群落	
伐採跡地群落	低木	タラノキ-クサイチゴ群落他	
	草本	タケニグサ群落他	
針葉樹林		モミ群落	モミ-シキミ群集 ケヤキ群集モミ亜群集
		ツガ群落	ツガ-ミツバツツジ群集
		アカマツ群落	アカマツ-ヤマツツジ群集
植林		スギ・ヒノキ植林	
	外国産針葉樹植林	テーダマツ植林	
	山地砂防植林、河畔林	ハリエンジュ(ニセアカシア)群落	
	果樹園	クリ・ウメ等	
	竹林	モウソウチク林	
	タケ・ササ群落	アズマネザサ群落	
草本群落	山地二次草原	ススキ-マルバハギ群落	
	多年生広葉草本群落	クズ群落他	カナムグラ-クズ群集他
	単子葉草本群落	ススキ-チガヤ群落他	ススキ群落
	河辺植生	オギ群落、ヨシ群落、ツルヨシ群落	
	畑・放棄畑雑草群落	ニシキソウ-カラスビシャク群落、ヒメムカシヨモギ-オオアレチノギク群落他	
	水田・放棄水田雑草群落	ウリカワー-コナギ群落、ミゾソバ群落他	
	路傍雑草群落・踏跡群落	ヨモギ-ユウガギク群落他	カゼグサー-チカラシバ群落
	人工シバ草地	シバ群落	
	緑化法面草地	オニウシノケガサ群落他	
	その他	樹群を持った公園、墓地、自然裸地、水面、造成地、採石地、市街地等	

②調査地の群落群集

◇ミズナラークリ群集

市内の山に広く分布している落葉広葉林である。市内では、標高 600m 付近からミズナラが出現し、ミズナラークリ群集が成立しているが、低地から生えているコナラが混じっていることが多い。標高 1,000m 付近の山地周辺では、コナラが混ざらない群集が小面積ながらも見られる。奥多摩山地全体では、コナラが混ざらない群集が標高 700～1,600m 付近まで幅広く分布している。

なお、馬頭刈尾根には広いミズナラークリ群集が点在するが、コナラ、コウヤボウキ、サルトリイバラなどが混ざるコナラ亜群集となっており、標高 930m の馬頭刈尾根の北條山付近では、ミズナラよりもコナラが優占している。

また、臼杵山の山頂付近は、「東京都植生調査報告書」(1987 年)によると、檜原村側の林がブナクラス域の代表的二次林のミズナラークリ群集として紹介されているが、あきる野市側の東部標高 800m の谷頭部には、ミズナラークリ群集の構成種とシオジミヤマクマワラビ群集の構成種が混じった林があるものの、ミズナラは見当たらない。高木層は、サワシバ、カスミザクラ、クマノミズキなどが優占し、亜高木はサワシバが優占、低木層はマルバウツギが優占している。高木層の樹木は、直径 30cm 前後、高さは 20m 前後となっている。

◇ツガーミツバツツジ群集

山地の岩が多い尾根筋や斜面に見られる群集である。市内でまとまったものは、サルギ尾根から岩石園に伸びる尾根の途中に成立している。この地域では、標高 1,000m の岩が多い細尾根に成立しており、ツガの優占度は高く、イヌブナが多い。また、バイカツツジ、ミツバツツジなどツツジ類が多く、典型的なツガーミツバツツジ群集である。草本が少ないのもこの群集の特徴で、今回調査を実施した区画でも草本は見つからなかった。

秋川丘陵の北面にある雨武主神社の境内にも小規模のツガ林があるが、構成種はシラカシ群集のモミ亜群集に近い。

◇シオジミヤマクマワラビ群集（サワグルミ林）

市内では、岩石園から高岩山に向かう途中の枝沢に成立しているが、シオジはなくサワグルミが優占している。かつて、大洪水時にできたと思われる岩塊地に進入したサワグルミが、そのまま成長したと思われる。大きなものは直径 50cm 前後、高さ 30m を超えている。

この群集は、奥多摩山地では標高 900～1,700m の範囲で生育しているが、本調査で確認した地域は標高 860m の高さであるため、群集の下部の特徴であるケヤキーイロハモミジ群集の構成種があることが考えられたが、見受けられなかった。

◇ケヤキーイロハモミジ群集

この群集は、標高 300～900m までの沢筋の急斜面や角礫の堆積する崖錐部に成立する群集である。市内では、御岳沢の源流の岩石園などでこの群集が成立している。岩石園は、傾斜が緩く広い沢なので、カノツメソウ、ギンバイソウなどの草本植物が多い。

◇モミーイヌブナ群集

奥多摩山地では、標高 700~1,000m にかけて分布している群集で、市内では規模は小さいが、沢を上り詰めて尾根に出る途中でよく見かける。イヌブナのほかに、アワブキ、クマシデ、アオハダ、コアシサイなどが多く、常緑樹は少ない。

◇フサザクラータマアジサイ群集

奥多摩山地では、標高 300~1,200m までの沢沿いに分布し、市内でも小規模ながら丘陵地でも散見し、山地の谷頭近くまで見られる。フサザクラは、大径木が少ない。これは、沢沿いの不安定な場所にあり、大きくなる前に倒れてしまうためであると考えられる。

低木層はタマアジサイが優占し、チドリノキ、コクサギ、アブラチャンなども含まれるが、堰堤上の土砂の堆積した平坦地に大きな群落となっている所もある。

オオバアサガラ、オニイタヤなどが優占する林もあり、御岳沢の谷頭部の標高 900m 付近ではオオバアサガラ亜群集を確認した。直径約 25cm、高さ約 25m のオオバアサガラがあり、この種としては大径木である。フサザクラは、亜高木層と低木層にわずかにあるのみで、低木層はキブシ、アブラチャン、チドリノキが占めている。草本層にはシオジミヤマクマワラビ群集の識別種のミヤマクマワラビがある。

◇シラカシ群集—ケヤキ亜群集ヤブソテツ変群集（ケヤキ—ヤブソテツ群集）

市内では、秋川や平井川の河岸段丘に見られ、また、盆堀川やその上流域でも確認できる。

盆堀川支流の石津窪の林分では、標高 400m で高木層にケヤキ、アラカシが優占し、亜高木層にアラカシ、ヤブツバキが優占している。また、イヌガヤ、マルバウツギ、ヤブソテツなどヤブソテツ変群集の構成種が多い。

横沢入地区では、標高 270m の尾根近くの傾斜面にケヤキ亜群集がある。高木層にケヤキ、ムクノキ、エノキが優占し、亜高木層にアラカシ、シラカシが優占する。草本層もジャノヒゲ、ヤブラン、ヤブコウジなどがあり、典型的なケヤキ亜群集に近い。

◇モミ林（モミーシキミ群集またはケヤキ群集モミ亜群集）

スギ、ヒノキなどの植林地の所々にモミ林が残されているが、いずれも小規模である。高明山（光明山）南側尾根の中腹、標高 410m には、市内で最も広大と思われるモミ林があり、モミは高さ約 32m、平均直径約 70cm であった。高木層にモミ、コナラが優占し、亜高木層、低木層にアラカシが優占している。カヤ、イヌガヤ、ツクバネガシなど、モミーシキミ群集の構成種も含まれている。さらにアセビ、ウリカエデ、ヤマツツジなど、モミ亜群集の構成種が多い。

◇コナラ—クリ群集

この群集は、丘陵地から標高 700m ぐらいまでの山地に成立する群集である。

市内では、八王子市境の舟子尾根に多く存在する。標高 520m で調査した林分では、高木層はコナラが優占し、亜高木層にムラサキシキブ、マルバアオダモ、ヤマウルシがあり、低木層は、コアシサイが優占し、アブラチャン、バイカツツジ、ミヤマシキミが自生している。この地域は、構成種から山地に多い典型亜群集と考えられる。

その他の丘陵地では、秋川丘陵で3か所、横沢入地区、菅生地区で各1か所調査したが、亜高木層、低木層にヒサカキが優占し、ツルグミ、ヤブコウジ、シラカシがあることからヒサカキ亜群集と考えられる。

◇アカマツ林（アカマツ・ヤマツツジ群集）

アカマツ林やアカマツは年々減少しており、大きくて健全なマツは少なくなった。その中で、深沢地区のマツ林は、枯れ木が少なく樹勢が良い。高木層はアカマツが優占し、亜高木層、低木層の構成種はコナラ・クリ群集とほぼ同じであった。

舟子尾根の標高500m付近は、高木層にはアカマツが優占するが、亜高木層や低木層にアカマツはなく、コナラ・クリ群集と同様である。アカマツの平均直径は45cm程で、樹勢が良い個体は半分以下である。

◇ススキ・マルバハギ群落

かつては山地に広がっていたススキ草原であるが、現在は、標高1,054mの馬頭刈尾根の富士見台と、標高687mの刈寄山山頂にわずかに残っているのみである。

富士見台は、富士山の展望のため草刈り等が実施され、草地が維持されていることから、シシウド、オカトラノオ、オヤマボクチなどがあり、湿性のチダケサシも自生している。近くには、陽性低木のノリウツギが群生し、モミジイチゴなどの伐採跡地群落もできている。

刈寄山の草地の植物種は、日当たりの良い林道沿いに残されている。富士見台とは植物種の構成に若干の違いが見られる。

◇スギ・ヒノキ植林

山地の約7割がスギ・ヒノキ植林地であるが、手入れがされていない林も多い。沢沿いは主にスギ植林地で、低木層にタマアジサイが密生している林が多く、ヤマアジサイも多い。尾根筋ではヒノキが主に植えられ、林床に植物が生育していない林もある。低木層に、コアジサイが優占するヒノキ林も多い。刈寄山の西側の尾根では、手入れが良かったためか、16x16mの調査枠の中に50種余りの植物を確認した。

◇ハリエンジュ（ニセアカシア）植林

山地の急傾斜地には、砂防のためアメリカ原産のハリエンジュが植えられ、初夏には白い花が目立つ。伝名沢上流では、左岸にまとまった林分があり、枯れたり倒れているものも多い。山地のハリエンジュの種子が下流に流れ、河原で林となっている。

（8）主な巨木

① 巨木の変遷

秋川市教育委員会（現あきる野市教育委員会）が発行した「秋川市の文化財第六集」（1972年）では、「名木・巨木」として、22本の巨木が掲載されているが、そのうちの5本はすでになく、その他は防腐処置がされているものや、枝を落とされているものが多い。

今回の調査では、現在天然記念物に指定され、当時の形態を保っていると考えられる巨木の直径を計測したが、約40年間の変化は少なかった。

樹種	所在	秋川市の文化財(1972年)		今回の調査
		目通り幹囲 (cm)	1972年の推定される直径 (cm)	2011年の直径 (cm)
サカキ	正勝神社 (菅生地区)	154.53	49	49
スギ	秋川神明社 (牛沼地区)	396.93	126	135
ケヤキ	熊野神社 (小川地区)	679	216	210 (材は朽ちている)
カゴノキ* ¹	地蔵院 (雨間地区)	396.93	126	131
タブノキ* ²	慈勝寺 (草花地区)	410	131	150

*1、*2:「秋川市の文化財」では「イヌグス(ナンジャモンジャ)」として掲載

現在、あきる野市が指定している保存緑地(樹木)の内、指定当時直径1m以上の巨木の数は20本である。

巨木(保存緑地(樹木))の内訳

樹種	数(本)
ケヤキ	4
スギ	6
ヒノキ	1
ヤマザクラ	2
カヤ	1
トチノキ	1
スダジイ	1
ウラジロガシ	1
ソメイヨシノ	1
クスノキ	1
タブノキ	1

保存樹木に指定された樹木は、主に人家付近の社寺にあるが、その他、山中で確認された巨木のうち2件を紹介する。

◇山中で確認した巨木

養沢川の上流、岩石園東の尾根
東面に自生するミズナラ
直径 1.76m・樹高約 14m・幹は空洞



周囲のスギは伐採されている

高岩山の東面に自生するクリ
直径 1.20m・樹高約 16m



幹回りの半分は枯れている

②高明神社参道及び神社跡地周辺の巨木等

馬頭刈尾根南東端の高明山（光明山）の参道には、約 200m にわたりスギ、ヒノキ、モミなどの針葉樹のほか、イタヤカエデ、クマノミズキ、アカシデ、ヤマザクラなどの落葉広葉樹が生育している。高さ 30m 以上の木が山頂に向かって並び、遠方からでも確認できる。標高 700m から上部には、5 本のブナが確認された。かつてはブナ林が成立していたと思われるが、ムシカリなどのブナ林の構成種は確認できなかった。

これほどの高地で大木の並木が形成され、また、生育域の下限と考えられる地点でのブナの大木の存在など、非常に注目すべき地域である。

「東京都現存植生図 2007 年版」では、並木の下半分はマツ林として表記されているが、マツはわずかで、太い朽ちた幹が所々にあるのみであった。

本調査において、高明神社参道及び神社跡地周辺で確認された樹木は次のとおりである。

(本)

樹種	直 径 (cm)								計
	未計測	~50	51~60	61~70	71~80	81~90	91~100	101≥	
スギ	1		7	28	17	14	3	7	77
ヒノキ	1		8	15	3	2			29
アカマツ			1	2	3	2			8
モミ			3	2		1			6

樹種	直 径 (cm)								計
	未計測	～50	51～60	61～70	71～80	81～90	91～100	101≥	
ツガ				1					1
ヤマザクラ			1	1					2
カスミザクラ				1					1
アカシデ		1							1
オニイタヤ		1			1				2
クマノミズキ		1							1
シロダモ		1							1
コナラ				1	1				2
ミズナラ	1								1
ブナ	1	1		2	1				5
ハリギリ			1	1					2
ヤマトアオダモ			1						1
イタヤカエデ					1				1
イヌシデ	1		1						2
合 計	5	5	23	54	27	19	3	7	143

※樹木数は枯損木を含む。

※「未計測」は、急傾斜地等で測定が困難であった場所の樹木について目視で存在を確認したものである。

(9) 確認された植物

①植物リスト

3年間の調査で確認された植物を次のとおり示す。

リスト作成に当たっては、平成18(2006)年からあきる野市の植物調査を実施している奥田重俊氏(横浜国立大学名誉教授)の資料も参考にしている。

今回の調査では、約1,500種の植物が確認され、帰化植物約250種、栽培植物20種、特定外来生物に指定された植物6種が確認された。また、「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～2010年版」(東京都環境局)において、西多摩地区の希少種とされているものが約200種確認されており、その他にも市域において希少と考えられる植物が確認された。

希少種は、かつてから数が少ないものもあるが、希少植物となった原因は主に、土地利用転換による草地の減少、生育環境の消失、草刈り・除草(除草剤散布を含む)によるもの、採取・盗掘によるものなどが考えられる。

次に調査結果のリストを示すが、希少種については、市内では比較的個体数が多い、簡単に持ち去ることができないなどの種を除き、保全の観点から、原則非公開とする。

◇凡例

※該当するものに○

帰化	国内外から人為的に持ち込まれた植物で野生状態になったもの
栽培	スギ、ヒノキなどの栽培植物
特定外来	特定外来生物に指定されている植物

植物名	帰化	栽培	特定外来	植物名	帰化	栽培	特定外来
ヒカゲノカズラ科				イワトラノオ			
トウゲシバ				コバノヒノキシダ			
イワヒバ科				トラノオシダ			
イワヒバ				ミサクボシダ			
カタヒバ				シシガシラ科			
クラマゴケ				シシガシラ			
コンテリクラマゴケ	○			オシダ科			
トクサ科				アイアスカイノデ			
イヌドクサ				イノデ			
スギナ				イノデモドキ			
トクサ				イワイタチシダ			
ハナヤスリ科				オオイタチシダ			
オオハナワラビ				オオカナワラビ			
オガホノナツノハナワラビ				オオベニシダ			
フユノハナワラビ				オクマワラビ			
ゼンマイ科				オシダ			
オクタマゼンマイ				オニイノデ			
ゼンマイ				オニヤブソテツ			
キジノオシダ科				カタイノデ			
キジノオシダ				クマワラビ			
フサシダ科				サイゴクイノデ			
カニクサ				サカゲイノデ			
コケシノブ科				ジュウモンジシダ			
ウチワゴケ				ツヤナシイノデ			
コウヤコケシノブ				ツルデンダ			
チチブホラゴケ				トウキョウイノデ			
ホソバコケシノブ				ハカタシダ			
コバノイシカグマ科				ヒメイタチシダ			
イヌシダ				ベニシダ			
イワヒメワラビ				ミサキカグマ			
オウレンシダ				ミヤマイタチシダ			
フモトシダ				ミヤマクマワラビ			
ワラビ				ヤブソテツ			
ホングウシダ科				ヤマイタチシダ			
ホラシノブ				ヤマヤブソテツ			
シノブ科				リョウメンシダ			
シノブ				ヒメシダ科			
ホウライシダ科				アオハリガネワラビ			
イワガネゼンマイ				ゲジゲジシダ			
イワガネソウ				ハシゴシダ			
クジャクシダ				ハリガネワラビ			
タチシノブ				ヒメシダ			
ハコネシダ				ヒメワラビ			
ホウライシダ	○			ホシダ			
イノモトソウ科				ミゾシダ			
イノモトソウ				ミドリヒメワラビ			
オオバノイノモトソウ				ヤワラシダ			
チャセンシダ科				イワデンダ科			

植物名	帰化	栽培	特定外来	植物名	帰化	栽培	特定外来
イッポンワラビ				カヤ			
イヌガンソク				クルミ科			
イヌワラビ				オニグルミ			
イワデンダ				サワグルミ			
オオヒメワラビ				ヤナギ科			
キヨタキシダ				アカメヤナギ			
クサソテツ				イヌコリヤナギ			
コウヤワラビ				オノエヤナギ			
シケシダ				カワヤナギ			
シケチシダ				シダレヤナギ		○	
セイタカシケシダ				タチヤナギ			
ニシキシダ				ネコヤナギ			
ヌリワラビ				バッコヤナギ			
ノコギリシダ				ヤマナラシ			
ハクモウイノデ				カバノキ科			
ハコネシケチシダ				アカシデ			
ヒロハイヌワラビ				アサダ			
フクロシダ				イヌシデ			
ヘビノゴザ				ウダイカンバ			
ヘビヤマイヌワラビ				オオバヤシャブシ			
ホソバシケチシダ				オノオレカンバ			
ミヤマシケシダ				クマシデ			
ヤマイヌワラビ				ケヤマハンノキ			
ウラボシ科				サワシバ			
ノキシノブ				シラカバ			
ヒメノキシノブ				ツノハシバミ			
ビロードシダ				ハンノキ			
マメヅタ				ミズメ			
ミツデウラボシ				ミヤマヤシャブシ			
イチョウ科				ヤシャブシ			
イチョウ		○		ヤマハンノキ			
マツ科				ブナ科			
アカマツ				アラカシ			
カラマツ		○		イヌブナ			
クロマツ		○		ウラジロガシ			
ツガ				オオツクバネガシ			
テーダマツ		○		カシワ			
モミ				クヌギ			
スギ科				クリ			
スギ		○		コナラ			
ヒノキ科				シラカシ			
アスナロ		○		スタジイ			
サワラ		○		ツクバネガシ			
ネズ				ブナ			
ヒノキ		○		マテバシイ		○	
イヌガヤ科				ミズナラ			
イヌガヤ				ニレ科			
イチイ科				エゾエノキ			

植物名	帰化	栽培	特定外来	植物名	帰化	栽培	特定外来
エノキ				シンミズヒキ			
オヒョウ				スイバ			
ケヤキ				タニソバ			
ハルニレ				ツルドクダミ	○		
ムクノキ				ナガバギシギシ	○		
クワ科				ナガボハナタデ			
イタビカズラ				ネバリタデ			
カジノキ	○			ハナタデ			
カナムグラ				ヒメスイバ	○		
カラハナソウ				ヒメツルソバ	○		
マグワ(クワ)		○		ボントクタデ			
クワクサ				ママコノシリヌグイ			
ヒメコウゾ				ミズヒキ			
ヤマグワ				ミソソバ			
イラクサ科				ミチヤナギ			
アオミズ				ミヤマタニソバ			
イラクサ				ヤナギタデ			
ウワバミソウ				ヤノネグサ			
カテンソウ				ヤマミゾソバ			
カラムシ				ヤマゴボウ科			
クサコアカソ				ヨウシュヤマゴボウ	○		
コアカソ				ザクロソウ科			
ナガバヤブマオ				クルマバザクロソウ	○		
ナンバンカラムシ	○			ザクロソウ			
ヒメウワバミソウ				スベリヒユ科			
ミズ				スベリヒユ			
ムカゴイラクサ				ハゼラン	○		
メヤブマオ				ナデシコ科			
ヤブマオ				イヌコハコベ	○		
ヤマミズ				ウシハコベ			
ビャクダン科				オオヤマハコベ			
カナビキソウ				オランダミミナグサ	○		
ツクバネ				カワラナデシコ			
ヤドリギ科				コハコベ	○		
マツグミ				サボンソウ	○		
ヤドリギ				サワハコベ			
タデ科				ツメクサ			
アキノウナギツカミ				ノミノツツリ			
アレチギシギシ	○			ノミノフスマ			
イシミカワ				フシグロ			
イタドリ				ミドリハコベ			
イヌタデ				ミミナグサ			
エゾノギシギシ	○			ミヤマハコベ			
オオイヌタデ				ムシトリナデシコ	○		
オオケタデ	○			アカザ科			
オオミゾソバ				アリタソウ	○		
ギシギシ				コアカザ	○		
シャクチリソバ	○			ゴウシュウアリタソウ	○		

植物名	帰化	栽培	特定外来
シロザ			
ホソバアカザ	○		
ヒユ科			
イヌビユ	○		
ヒカゲイノコズチ			
ヒナタイノコズチ			
ホソアオゲイトウ	○		
ホナガイヌビユ	○		
モクレン科			
コブシ			
ホオノキ			
マツバサ科			
サネカズラ			
マツバサ			
シキミ科			
シキミ			
クスノキ科			
アブラチャン			
カゴノキ			
クスノキ	○		
クロモジ			
シロダモ			
タブノキ			
ダンコウバイ			
ニッケイ	○		
ヤブニッケイ			
ヤマコウバシ			
ヤマグルマ科			
ヤマグルマ			
フサザクラ科			
フサザクラ			
カツラ科			
カツラ			
キンポウゲ科			
アキカラマツ			
イチリンソウ			
イヌショウマ			
ウマノアシガタ			
オオバショウマ			
キツネノボタン			
クサボタン			
ケキツネノボタン			
コボタンヅル			
サラシナショウマ			
セリバヒエンソウ	○		
センニンソウ			
タガラシ			
ニリンソウ			

植物名	帰化	栽培	特定外来
ハンショウヅル			
ボタンヅル			
ヤマトリカブト			
メギ科			
ナンテン	○		
ヒイラギナンテン	○		
ホソバヒイラギナンテン	○		
メギ			
アケビ科			
アケビ			
ゴヨウアケビ			
ミツバアケビ			
ムベ	○		
ツヅラフジ科			
アオツヅラフジ			
ツヅラフジ			
ドクダミ科			
ドクダミ			
センリョウ科			
センリョウ	○		
ヒトリシズカ			
フタリシズカ			
ウマノスズクサ科			
カンアオイ			
フタバアオイ			
マタタビ科			
キウイフルーツ		○	
サルナシ			
マタタビ			
ツバキ科			
サカキ	○		
チャノキ		○	
ナツツバキ			
ヒサカキ			
モッコク	○		
ヤブツバキ			
オトギリソウ科			
オトギリソウ			
コケオトギリ			
コゴメバオトギリ	○		
ケシ科			
アツミゲシ	○		
クサノオウ			
シラユキゲシ	○		
ジロポウエンゴサク			
タケニグサ			
ナガミヒナゲシ	○		
ミヤマキケマン			

植物名	帰化	栽培	特定外来	植物名	帰化	栽培	特定外来
ムラサキケマン				コアジサイ			
ヤマエンゴサク				コチャルメルソウ			
アブラナ科				タマアジサイ			
イヌガラシ				チダケサシ			
イヌナズナ				ツルアジサイ			
オオバタネツケバナ				ツルネコノメソウ			
オランダガラシ	○			ニッコウネコノメ			
カキネガラシ	○			ネコノメソウ			
カラクサナズナ	○			ノリウツギ			
ジャニンジン				バイカウツギ			
スカシタゴボウ				ハナネコノメ			
セイヨウアブラナ	○			ヒメウツギ			
セイヨウカラシナ	○			マルバウツギ			
タチタネツケバナ				ヤマアジサイ			
タネツケバナ				ヤマネコノメソウ			
ナズナ				ユキノシタ			
ハナダイコン	○			ヨゴレネコノメ			
ヒロハコンロンソウ				バラ科			
マメゲンバイナズナ	○			イヌザクラ			
マルバコンロンソウ				ウラジロノキ			
ミズタネツケバナ				ウワミズザクラ			
ミチタネツケバナ	○			オオウラジロノキ			
ミチバタガラシ	○			オオヤマザクラ			
ミツバコンロンソウ				オヘビイチゴ			
ヤマハタザオ				カジイチゴ	○		
ユリワサビ				カスミザクラ			
ワサビ				カマツカ			
マンサク科				カワラサイコ			
マンサク				キジムシロ			
ベンケイソウ科				キンミズヒキ			
アズマツメクサ				クサイチゴ			
オカタイトゴメ	○			クサボケ			
オノマンネングサ				クマイチゴ			
キリンソウ	○			コゴメウツギ			
コモチマンネングサ				シモツケ			
ツルマンネングサ				シャリンバイ	○		
ヒメレンゲ				ソメイヨシノ		○	
マルバマンネングサ				ダイコンソウ			
ミツバベンケイソウ				タチバナモドキ	○		
メキシコマンネングサ	○			チョウジザクラ			
ユキノシタ科				ツルキンバイ			
アカショウマ				テリハノイバラ			
イワガラミ				トキワサンザシ	○		
イワボタン				ナワシロイチゴ			
ウツギ				ナンキンナナカマド			
ガクウツギ				ニガイチゴ			
ギンバイソウ				ノイバラ			
クサアジサイ				ヒメキンミズヒキ			

植物名	帰化	栽培	特定外来	植物名	帰化	栽培	特定外来
ビワ	○			ハイメドハギ			
フユイチゴ				フジ			
ヘビイチゴ				フジカンゾウ			
マメザクラ				フジキ			
マルバシヤリンバイ	○			マルバヌスビトハギ			
ミツバツチグリ				マルバハギ			
ミツモトソウ				マルバヤハズソウ			
ミヤマザクラ				ミヤコグサ			
ミヤマフユイチゴ				ミヤマタニワタシ			
モミジイチゴ				ムラサキツメクサ	○		
ヤブヘビイチゴ				メドハギ			
ヤマザクラ				ヤハズエンドウ			
ヤマテリハノイバラ				ヤハズソウ			
ヤマナシ				ヤブツルアズキ			
ヤマブキ				ヤブハギ			
ユキヤナギ				ヤブマメ			
ワレモコウ				ヤマハギ			
マメ科				ユクノキ			
アレチヌスビトハギ	○			カタバミ科			
イタチハギ	○			アカカタバミ			
イヌエンジュ				イモカタバミ	○		
ウマゴヤシ	○			エゾタチカタバミ			
オオバタンキリマメ				オッタチカタバミ	○		
カスマグサ				カタバミ			
カラメドハギ				ベニカタバミ	○		
カワラケツメイ				ムラサキカタバミ	○		
キハギ				フウロソウ科			
クズ				アメリカフウロ	○		
クララ				ゲンノショウコ			
ケヤブハギ				ヒメフウロ	○		
ゲンゲ	○			ミツバフウロ			
コマツナギ				トウダイグサ科			
コメツブツメクサ	○			アカメガシワ			
サイカチ				エノキグサ			
ジャケツイバラ				オオニシキソウ	○		
シロツメクサ	○			コニシキソウ	○		
スズメノエンドウ				コミカンソウ			
ツクシハギ				シラキ			
ツルフジバカマ				タカトウダイ			
ツルマメ				トウゴマ	○		
トキリマメ				トウダイグサ			
ナヨクサフジ	○			ナガエコミカンソウ	○		
ナンテンハギ				ナツトウダイ			
ハリエンジュ	○			ヒトツバハギ			
ヌスビトハギ				ヒメミカンソウ			
ネコハギ				ユズリハ科			
ネムノキ				ユズリハ			
ノササゲ				ミカン科			

植物名	帰化	栽培	特定外来	植物名	帰化	栽培	特定外来
イヌザンショウ				ツリフネソウ科			
オオバノキハダ				キツリフネ			
カラスザンショウ				ツリフネソウ			
コクサギ				モチノキ科			
サンショウ				アオハダ			
フユザンショウ				イヌツゲ			
マツカゼソウ				ウメモドキ			
ミヤマシキミ				クロガネモチ	○		
ユズ		○		ソヨゴ			
ニガキ科				タラヨウ	○		
ニガキ				モチノキ			
ニワウルシ	○			ニシキギ科			
ヒメハギ科				オニツルウメモドキ			
ヒメハギ				コマユミ			
ウルシ科				サワダツ			
ウルシ		○		ツリバナ			
ツタウルシ				ツルウメモドキ			
ヌルデ				ツルマサキ			
ヤマウルシ				ニシキギ			
ヤマハゼ				マサキ			
カエデ科				マユミ			
アサノハカエデ				ユモトマユミ			
イタヤカエデ				ミツバウツギ科			
イロハモミジ				ゴンズイ			
ウラゲエンコウカエデ				ミツバウツギ			
ウリカエデ				クロウメモドキ科			
ウリハダカエデ				オオクマヤナギ			
エンコウカエデ				クマヤナギ			
オオモミジ				クロウメモドキ			
オニイタヤ				ケンボナンシ			
カジカエデ				ブドウ科			
コハウチワカエデ				エビヅル			
コミネカエデ				サンカクヅル			
チドリノキ				ツタ			
ハウチワカエデ				ノブドウ			
ヒトツバカエデ				ヤブガラシ			
ヒナウチワカエデ				ヤマブドウ			
ホソエカエデ				シナノキ科			
ミツデカエデ				カラスノゴマ			
メグスリノキ				アオイ科			
ヤマモミジ				アメリカキンゴジカ	○		
ムクロジ科				イチビ	○		
ムクロジ				ゼニアオイ	○		
トチノキ科				ゼニバアオイ	○		
トチノキ				アオギリ科			
アワブキ科				アオギリ	○		
アワブキ				ジンチョウゲ科			
ミヤマハハソ				ミツマタ	○		

植物名	帰化	栽培	特定外来
グミ科			
アキグミ			
ツルグミ			
ナツグミ			
ナワシログミ			
イイギリ科			
イイギリ			
スミレ科			
アオイスミレ			
アカネスミレ			
アケボノスミレ			
アメリカスミレサイシン	○		
アリアケスミレ			
エイザンスミレ			
オカスミレ			
ケマルバスミレ			
コスミレ			
コミヤマスミレ			
スミレ			
タカオスミレ			
タチツボスミレ			
ツボスミレ			
ナガバノスミレサイシン			
ニオイスミレ	○		
ニオイタチツボスミレ			
ノジスミレ			
ヒカゲスミレ			
ヒナスミレ			
ヒメスミレ			
フモトスミレ			
マルバスミレ			
キブシ科			
キブシ			
シュウカイドウ科			
シュウカイドウ	○		
ウリ科			
アマチャヅル			
アレチウリ	○		○
カラスウリ			
キカラスウリ			
スズメウリ			
ミソハギ科			
キカシグサ			
ヒメミソハギ			
ホソバヒメミソハギ	○		
ミソハギ			
アカバナ科			
アカバナ			

植物名	帰化	栽培	特定外来
イワアカバナ			
ウシタキソウ			
オオマツヨイグサ	○		
コマツヨイグサ	○		
タニタデ			
チョウジタデ			
ヒルザキツキミソウ	○		
ミズタマソウ			
メマツヨイグサ	○		
ヤマモモソウ	○		
ユウゲショウ	○		
ユウゲショウ(白花品)	○		
アリノトウグサ科			
アリノトウグサ			
オオフサモ	○		○
ウリノキ科			
ウリノキ			
ミズキ科			
アオキ			
クマノミズキ			
ハナイカダ			
ミズキ			
ヤマボウシ			
ウコギ科			
ウド			
オカウコギ			
カクレミノ	○		
キツタ			
コシアブラ			
タカノツメ			
タラノキ			
トチバニンジン			
ハリギリ			
ミヤマウコギ			
ヤツデ			
ヤマウコギ			
セリ科			
ウシミツバ			
ウマノミツバ			
オオチドメ			
オオバチドメ			
オヤブジラミ			
カノツメソウ			
シシウド			
シャク			
シラネセンキュウ			
セリ			
セントウソウ			

植物名	帰化	栽培	特定外来	植物名	帰化	栽培	特定外来
チドメグサ				ハイノキ科			
ノダケ				サワフタギ			
ノチドメ				タンナサワフタギ			
ハナウド				モクセイ科			
ヒカゲミツバ				アラゲアオダモ			
ヒメチドメ				イボタノキ			
ミツバ				オニイボタ			
ヤブジラミ				トウネズミモチ	○		
ヤブニンジン				ネズミモチ			
ヤマゼリ				ヒイラギ			
リョウブ科				マルバアオダモ			
リョウブ				ミヤマイボタ			
イチヤクソウ科				ヤマトアオダモ			
イチヤクソウ				リンドウ科			
ギンリョウソウ				ツルリンドウ			
マルバノイチヤクソウ				フデリンドウ			
ツツジ科				リンドウ			
アセビ				キョウチクトウ科			
アブラツツジ				ツルニチニチソウ	○		
イワナンテン				テイカカズラ			
サツキ	○			ヒメツルニチニチソウ	○		
シロヤシオ				ガガイモ科			
スノキ				イケマ			
トウゴクミツバツツジ				オオカモメヅル			
ナツハゼ				ガガイモ			
ネジキ				キジョラン			
バイカツツジ				コバノカモメヅル			
ホツツジ				タチガシワ			
ミツバツツジ				アカネ科			
ヤマツツジ				アカネ			
ヤブコウジ科				オオバノヤエムグラ			
カラタチバナ				オオフタバムグラ	○		
マンリョウ				キヌタソウ			
ヤブコウジ				ハシカグサ			
サクラソウ科				ハナヤエムグラ	○		
イヌヌマトラノオ				ヒメヨツバムグラ			
オカトラノオ				ヘクソカズラ			
コナスビ				ミヤマムグラ			
ナガエコナスビ				ヤエムグラ			
ヌマトラノオ				ヤマムグラ			
ギンレイカ				ヨツバムグラ			
カキノキ科				ヒルガオ科			
カキノキ	○			アメリカネナシカズラ	○		
マメガキ	○			カロライナアオイゴケ	○		
エゴノキ科				コヒルガオ			
エゴノキ				セイヨウヒルガオ	○		
オオバアサガラ				ネナシカズラ			
ハクウンボク				ヒルガオ			

植物名	帰化	栽培	特定外来
マメアサガオ	○		
マルバアサガオ	○		
マルバルコウ	○		
ムラサキ科			
オニルリソウ			
キュウリグサ			
ハナイバナ			
ヒレハリソウ	○		
ヤマルリソウ			
クマツヅラ科			
アレチハナガサ	○		
イワダレソウ	○		
カリガネソウ			
クサギ			
コムラサキ	○		
ムラサキシキブ			
ヤナギハナガサ	○		
ヤブムラサキ			
アワゴケ科			
アワゴケ			
シソ科			
アキノタムラソウ			
イヌコウジュ			
イヌゴマ			
イヌトウバナ			
ウツボグサ			
エゴマ	○		
オウギカズラ			
オドリコソウ			
オランダハッカ	○		
カキドオシ			
カメバヒキオコシ			
キバナアキギリ			
キランソウ			
クルマバナ			
コバノタツナミ			
シソ	○		
シモバシラ			
ジャコウソウ			
ジュウニヒトエ			
セキヤノアキチヨウジ			
タツナミソウ			
ツルニガクサ			
テンニンソウ			
トウバナ			
ナギナタコウジュ			
ナツノタムラソウ			
ニガクサ			

植物名	帰化	栽培	特定外来
ハッカ			
ヒメオドリコソウ	○		
ヒメジソ			
フトボナギナタコウジュ			
ホトケノザ			
マルバハッカ	○		
ミヤマナミキ			
メハジキ			
ヤマタツナミソウ			
ヤマトウバナ			
ヤマハッカ			
ラショウモンカズラ			
レモンエゴマ			
ナス科			
アメリカイヌホオズキ	○		
イヌホオズキ	○		
オオセンナリ	○		
クコ			
ケチヨウセンアサガオ	○		
センナリホオズキ	○		
タマサンゴ	○		
テリミノイヌホオズキ	○		
ハシリドコロ			
ハダカホオズキ			
ヒヨドリジョウゴ			
ホオズキ	○		
マルバノホロシ			
ヤマホロシ			
ワルナスビ	○		
フジウツギ科			
フサフジウツギ	○		
フジウツギ			
ゴマノハグサ科			
アゼトウガラシ			
アゼナ			
アメリカアゼナ	○		
ウリクサ			
オオイヌノフグリ	○		
オオカワヂシャ	○		○
カワヂシャ			
キリ		○	
クワガタソウ			
コシオガマ			
タケトアゼナ	○		
タチイヌノフグリ	○		
ツタバウンラン	○		
トキワハゼ			
ハナウリクサ	○		

植物名	帰化	栽培	特定外来	植物名	帰化	栽培	特定外来
ヒキヨモギ				ツリガネニンジン			
ヒナノウスツボ				ツルニンジン			
ピロードモウズイカ	○			ヒナキキョウソウ	○		
フラサバソウ	○			ホタルブクロ			
マツバウンラン	○			ミゾカクシ			
ミジホオズキ				ヤマホタルブクロ			
ミヤマママコナ				キク科			
ムシクサ				アカミタンポポ	○		
ムラサキサギゴケ				アキノキリンソウ			
モウズイカ	○			アキノノゲシ			
ノウゼンカズラ科				アズマヤマアザミ			
キササゲ	○			アメリカオニアザミ	○		
キツネノマゴ科				アメリカセンダングサ	○		
キツネノマゴ				アメリカカタサブロウ	○		
ハグロソウ				アラゲハンゴンソウ	○		
イワタバコ科				アレチノギク	○		
イワタバコ				イヌカミツレ	○		
ハマウツボ科				イヌククイモ	○		
ナンバンギセル				イワギク	○		
ハエドクソウ科				イワヨモギ	○		
ナガバハエドクソウ				ウスゲタマブキ			
ハエドクソウ				ウラジロチチコグサ	○		
オオバコ科				オオアレチノギク	○		
オオバコ				オオアワダチソウ	○		
ツボミオオバコ	○			オオオナモミ	○		
ヘラオオバコ	○			オオガクビソウ			
スイカズラ科				オオキンケイギク	○		○
ウグイスカグラ				オオジシバリ			
オオツクバネウツギ				オオハンゴンソウ	○		○
オトコヨウゾメ				オオブタクサ	○		
ガマズミ				オクモミジハグマ			
カリヨセウツギ				オグルマ			
コバノガマズミ				オケラ			
スイカズラ				オトコヨモギ			
ソクズ				オニタビラコ			
チシオウツギ				オニノゲシ	○		
ツクバネウツギ				オヤマボクチ			
ニシキウツギ				カシワバハグマ			
ニワトコ				カワラニガナ			
ミヤマガマズミ				カワラニンジン			
ムシカリ				カワラノギク			
ヤブデマリ				カワラハハコ			
ヤマウグイスカグラ				カワラヨモギ			
オミナエシ科				ガクビソウ			
オトコエシ				カントウタンポポ			
ツルカノコソウ				カントウヨメナ			
キキョウ科				ククイモ	○		
キキョウソウ	○			キダチコンギク	○		

植物名	帰化	栽培	特定外来	植物名	帰化	栽培	特定外来
キッコウハグマ				ハナガサギク	○		
キツネアザミ				ハナニガナ			
キバナコスモス	○			ハハコグサ			
ケムラサキニガナ				ハルジオン	○		
コウゾリナ				ハルシャギク	○		
コウヤボウキ				ハンゴンソウ			
コウリンタンポポ	○			ヒメガंकビソウ			
コオニタビラコ				ヒメジョオン	○		
コシロノセンダングサ	○			ヒメムカシヨモギ	○		
コセンダングサ	○			ヒメヨモギ			
コメナモミ				ヒヨドリバナ			
コヤブタバコ				ヒレアザミ			
サジガंकビソウ				ヒロハホウキギク	○		
サワギク				フキ			
サワヒヨドリ				フクオウソウ			
ジシバリ				ブタクサ	○		
シュウブンソウ				ブタナ	○		
シラヤマギク				フランスギク	○		
シロバナタンポポ				ベニバナボロギク	○		
シロヨメナ				ヘラバヒメジョオン	○		
セイトカアワダチソウ	○			ペラペラヨメナ	○		
セイヨウタンポポ	○			ホウキギク	○		
セイヨウノコギリソウ	○			ホソエノアザミ			
センボンヤリ				ホソバガंकビソウ			
タカアザミ				ミツバオオハンゴンソウ	○		
タカサブロウ				ミヤマヤブタバコ			
タチチコグサ	○			メタカラコウ			
タムラソウ				メナモミ			
ダンドボロギク	○			モミジガサ			
チチコグサ				ヤクシソウ			
チチコグサモドキ	○			ヤブタバコ			
ツワブキ	○			ヤブタビラコ			
テバコモミジガサ				ヤブレガサ			
トキンソウ				ヤマニガナ			
トゲチシャ	○			ユウガギク			
トネアザミ				ヨモギ			
ナガバノコウヤボウキ				リュウノウギク			
ナルトサワギク	○		○	オモダカ科			
ニガナ				オモダカ			
ヌマダイコン				ヘラオモダカ			
ノアザミ				トチカガミ科			
ノゲシ				コカナダモ	○		
ノコンギク				ヒルムシロ科			
ノニガナ				アイノコイトモ			
ノハラアザミ				ヤナギモ			
ノブキ				ユリ科			
ノボロギク	○			アマナ			
ハキダメギク	○			イワギボウシ			

植物名	帰化	栽培	特定外来	植物名	帰化	栽培	特定外来
ウバユリ				ホテイアオイ	○		
エンレイソウ				アヤメ科			
オオナルコユリ				オオニワゼキショウ	○		
オオバギボウシ				キショウブ	○		
オオバジャノヒゲ				シャガ	○		
オモト				ニワゼキショウ	○		
カタクリ				ヒメヒオウギズイセン	○		
キチジョウソウ				イグサ科			
コバギボウシ				アオコウガイゼキショウ			
サルトリイバラ				イ			
シオデ				クサイ			
ジャノヒゲ				コウガイゼキショウ			
タカサゴユリ	○			スズメノヤリ			
タチシオデ				ハナビゼキショウ			
チゴユリ				ヤマスズメノヒエ			
ツクバネソウ				ツユクサ科			
ツルボ				イボクサ			
ナガバジャノヒゲ				ツユクサ			
ナルコユリ				トキワツユクサ	○		
ニッコウキスゲ				ムラサキツユクサ	○		
ニラ		○		ヤブミョウガ			
ノカンゾウ				イネ科			
ノビル				アオカモジグサ			
バイケイソウ				アキノエノコログサ			
ハタケニラ	○			アキメヒシバ			
ハナニラ	○			アシカキ			
ヒメヤブラン				アシボン			
ホウチャクソウ				アズマガヤ			
ミヤマナルコユリ				アズマザサ			
ヤブカンゾウ				アズマネザサ			
ヤブラン				アブラススキ			
ヤマカシュウ				イチゴツナギ			
ヤマジノホトギス				イヌアワ			
ヤマホトギス				イヌビエ			
ヤマユリ				イヌムギ	○		
ヒガンバナ科				イブキヌカボ			
キツネノカミソリ				ウシクサ			
ヒガンバナ				ウシノシッペイ			
ヤマノイモ科				ウラハグサ			
オニドコロ				エゾノサヤヌカグサ			
キクバドコロ				エノコログサ			
タチドコロ				オオアブラススキ			
ナガイモ	○			オオアワガエリ	○		
ニガカシュウ				オオイチゴツナギ			
ヒメドコロ				オオウシノケグサ	○		
ヤマノイモ				オオエノコログサ			
ミズアオイ科				オオクサキビ	○		
コナギ				オオスズメノカタビラ	○		

植物名	帰化	栽培	特定外来	植物名	帰化	栽培	特定外来
オオスズメノテッポウ	○			スズメノチャヒキ			
オオニワホコリ				スズメノテッポウ			
オオネズミガヤ				スズメノヒエ			
オカメザサ	○			セイバンモロコシ	○		
オガルカヤ				セトガヤ			
オギ				タイヌビエ			
オニウシノケグサ	○			タチカモジグサ			
オヒシバ				タチネズミガヤ			
カズノコグサ				タツノヒゲ			
カゼクサ				チガヤ(フシゲチガヤ)			
カタバエノコロ				チカラシバ			
カニツリグサ				チゴザサ			
カモガヤ	○			チョウセンガリヤス			
カモジグサ				ツルスズメノカタビラ	○		
カラスムギ	○			ツルヨシ			
カリマタガヤ				ドジョウツナギ			
カリヤスモドキ				トダシバ			
カリヨセザサ				トボシガラ			
カンチク	○			ナガハグサ	○		
キツネガヤ				ナギナタガヤ	○		
ギョウギシバ				ナルコビエ			
キンエノコロ				ニコゲヌカキビ	○		
クサヨシ				ニセシラゲガヤ	○		
クマザサ	○			ニワホコリ			
ケイヌビエ				ヌカキビ			
ケチヂミザサ				ヌカボ			
ケナシチガヤ				ヌメリグサ			
コウライシバ	○			ネズミガヤ			
コスズメガヤ	○			ネズミノオ			
コチヂミザサ				ネズミムギ	○		
コツブキンエノコロ				ノガリヤス			
コヌカグサ	○			ノハラスズメノテッポウ			
コバンソウ	○			ハイクヌカグサ			
コブナグサ				ハイヌメリ			
コメガヤ				ハチク		○	
コメヒシバ				ハルガヤ	○		
ササガヤ				ヒエガエリ			
ササクサ				ヒメイヌビエ			
サヤヌカグサ				ヒメコバンソウ	○		
シナダレスズメガヤ	○			ヒメノガリヤス			
シバ				ホウキヌカキビ	○		
シバムギ	○			ホソムギ	○		
シマスズメノヒエ	○			マダケ		○	
ジュズダマ				ミゾイチゴツナギ			
シラゲガヤ	○			ミチシバ			
ススキ				ミノボロ			
スズダケ				ミヤコザサ			
スズメノカタビラ				ムラサキエノコログサ			

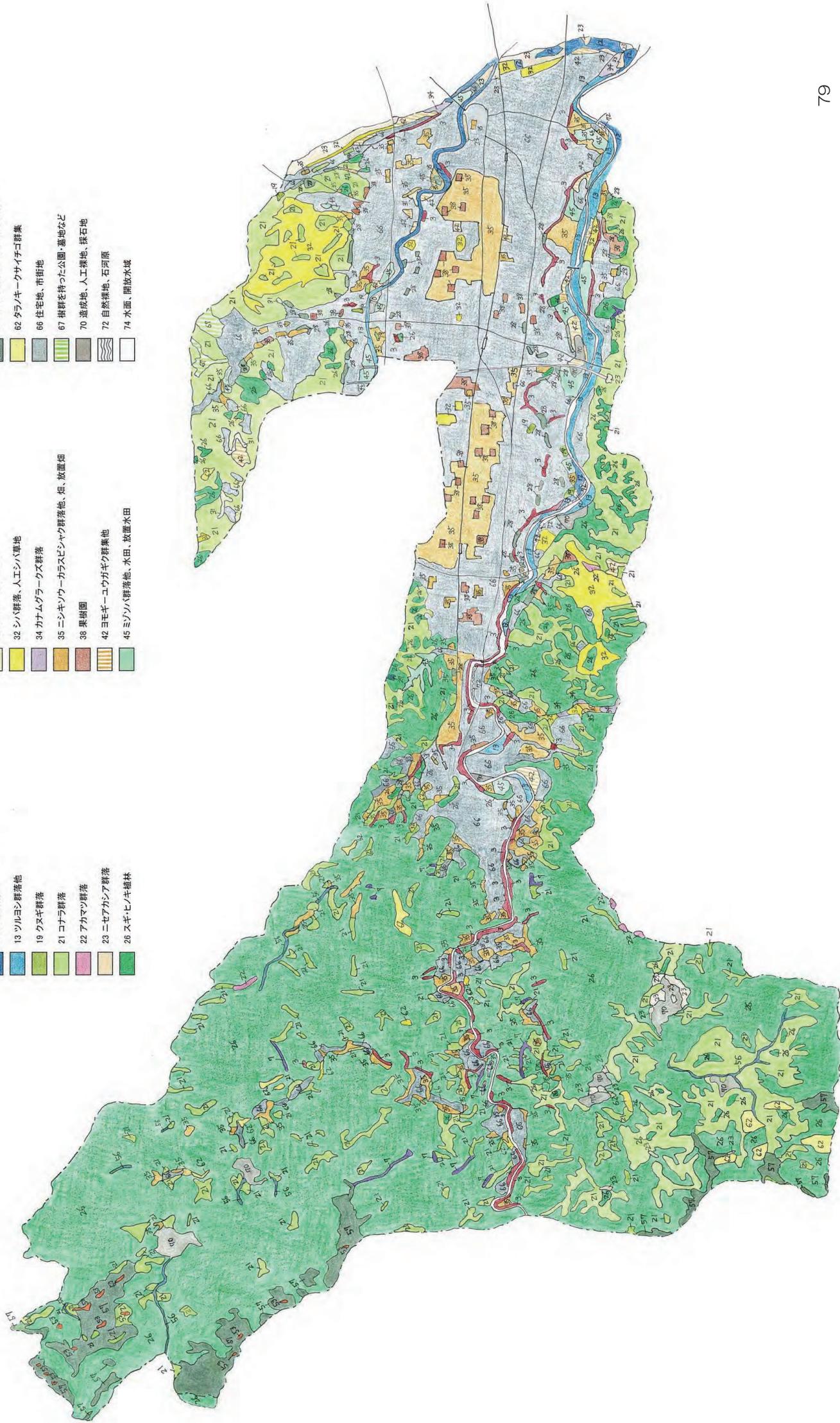
植物名	帰化	栽培	特定外来	植物名	帰化	栽培	特定外来
ムラサキネズミノオ	○			カヤツリグサ			
メガルカヤ				カワラスガナ			
メダケ				カワラスゲ			
メヒシバ				カンガレイ			
メリケンカルカヤ	○			カンスゲ			
モウソウチク		○		クログワイ			
ヤダケ				ケスゲ			
ヤマカモジグサ				ゴウソ			
ヤマヌカボ				コカンスゲ			
ヤマミゾイチゴツナギ				コゴメガヤツリ			
ヨシ				コジュズスゲ			
ヤシ科				サンカクイ			
シュロ	○			シバスゲ			
サトイモ科				ジュズスゲ			
ウラシマソウ				シラコスゲ			
オオマムシグサ				シラスゲ			
カラスビシャク				シロイトスゲ			
カントウマムシグサ				セイタカハリイ			
ショウブ				タガネソウ			
セキショウ				タニガワスゲ			
ヒトツバテンナンショウ				タマガヤツリ			
ホソバテンナンショウ				チャガヤツリ			
ミミガタテンナンショウ				テキリスゲ			
ムサシアブミ				テンツキ			
ウキクサ科				ナキリスゲ			
アオウキクサ				ナルコスゲ			
ウキクサ				ヌカスゲ			
ミクリ科				ヌマガヤツリ			
ミクリ				ノゲヌカスゲ			
ガマ科				ノテンツキ			
ガマ				ハマスゲ			
コガマ				ハリイ			
ヒメガマ				ヒカゲスゲ			
カヤツリグサ科				ヒゴクサ			
アイダクグ				ヒデリコ			
アオガヤツリ				ヒナガヤツリ			
アオスゲ				ヒメカンスゲ			
アゼガヤツリ				ヒメクグ			
アゼスゲ				ヒメヒラテンツキ			
アゼナルコ				ビロードスゲ			
アブラガヤ				ヒンジガヤツリ			
イヌホタルイ				ホソバヒカゲスゲ			
ウシクグ				ホタルイ			
エナシヒゴクサ				マスクサ			
オオアオスゲ				マツバイ			
オオタマツリスゲ				ミズガヤツリ			
オニスゲ				ミヤマカンスゲ			
カサスゲ				ミヤマシラスゲ			

植物名	帰化	栽培	特定外来
メアオスゲ			
メリケンガヤツリ	○		
モエギスゲ			
ヤブスゲ			
ヤマイ			
ヤマオオイトスゲ			
ヤワラスゲ			
バショウ科			
バショウ	○		
ショウガ科			
ミョウガ	○		
ラン科			
オオバトンボソウ			
クロヤツシロラン			
シュンラン			
ネジバナ			
ムヨウラン			

②あきる野市現存植生図

「東京都現存植生図2007年版」をもとに、本調査結果からあきる野市内の植生図を作成した。

- | | | |
|-------------------------------|---------------------------|---------------------|
| 3 常緑広葉樹の多いケヤキ林、シラカシ群集-ケヤキ亜群集他 | 27 テーダマツ植林 | 53 ツガ林、ツガ-ミソバハジツ群集他 |
| 7 モミ群落、モミ-シキミ群落他 | 28 モウソウチク林 | 56 フサザクラ-タマアザミ群集 |
| 12 オギ群落他 | 31 ススキ-チガヤ群落 | 57 ミズナラ林、ミズナラ-クリ群落 |
| 13 ツルヨシ群落他 | 32 シハ群落、人工シハ草地 | 62 タラノキ-クサイチゴ群落 |
| 19 クスギ群落 | 34 カナムグム-クズ群落 | 66 住宅地、市街地 |
| 21 コナラ群落 | 35 ニシキソウ-ガラスビシヤク群落他、畑、放置畑 | 67 樹群を伴った公園、草地など |
| 22 アカマツ群落 | 38 果樹園 | 70 造成地、人工裸地、採石地 |
| 23 ニセアカシア群落 | 42 ヨモギ-ユウガキク群落他 | 72 自然裸地、石河原 |
| 26 スギ-ヒノキ植林 | 45 ミソバ群落他、水田、放置水田 | 74 水面、開放水域 |



3 普及活動

市民を対象とした植物観察会及び樹木調査を次のとおり実施した。

(1) 自然観察会～横沢入の草花を訪ねて～

- ・内容 : 東京都の里山保全地域第1号に指定された横沢入地区で植物観察会を実施した。秋になると見られるツリフネソウやミゾソバなどの湿地性植物を中心に観察、調査員による解説を行った。
- ・実施日 : 平成22年9月12日(日)
- ・集合場所 : 武蔵増戸駅
- ・コース : 武蔵増戸駅⇒砂沼遺跡⇒横沢入地区⇒石山の池⇒天竺山⇒小机林道
- ・募集方法 : 市広報、ホームページ及びチラシ
- ・対象者 : 市民
- ・参加者 : 16名



(2) 樹木調査～雨武主神社の森を調べよう～

- ・内容 : 丘陵地としては珍しいツガの林が残る雨武主神社。ツガの他にもスギやヒノキの大木などがある。調査員による森と樹木の解説、樹高や幹回りなど、樹木の計測を行った。
- ・実施日 : 平成23年11月23日(水)
- ・集合場所 : あきる野市役所
- ・コース : 市役所⇒雨武主神社遥拝所⇒東秋留橋⇒雨武主神社
- ・募集方法 : 市広報、ホームページ及びチラシ
- ・対象者 : 市民
- ・参加者 : 7名



4 考察・課題

(1) 培われてきた環境

山地の植生は、植物社会学(緯度、垂直分布、地形の変化などから判断する。)の見地から、ヤブツバキクラス域上部からブナクラス域下限の一部にまで及びと考えられる。

かつては、代償植生のコナラークリ群集(丘陵地～低山帯を占める二次林)、ミズナラークリ群集(標高600m以上の山地帯を占める)が広く覆っていたと考えられるが、スギ、ヒノキ材が重視された時期に樹種転換活動が行われ、広葉樹林の減少が起きた。二

次林は、スギ・ヒノキ林に比べ多様性、自然更新性、持続性（樹種構成により極相に近いもの）、治山・治水性に優れており、野生動物などの生息環境にも不可欠であると考えられる。

今回の調査では、自然が織り成す植物群の絶妙な構成、配置を見ることができた。今後、森林のあり方は多様化すると予想されるが、本来の自然植生を維持することは、生態系保全の面からも重要である。

限られた調査地域の中でも、適性な環境を見だし自生する植物に、かつての森の姿を垣間見ることができた。本調査結果は、将来の望ましい森づくりに向け、貴重な資料になると考えられる。

（2）守るべき環境

あきる野市は多彩な自然環境に恵まれ、多くの植物が自生している。その中には、多くの希少植物も含まれているが、これらの植物を保全するためには、自生地の保護と維持管理が欠かせない。

これまで、様々な植物が環境の変化や自然地の消失により姿を消している。希少種、または、それに準ずる植物が自生している場所を保全するためには、官民一体となった効果的な保護施策が望まれる。

①河原の植物の保護

多摩川に群生していたカワラノギクは、台風などの洪水による流出や土砂の堆積などが要因となり、減少が続いている。かつての群生地は、現在はススキやハリエンジュに覆われている状況である。一方、河川管理の一環として、定期的な草刈りが実施されている河原も多いが、そのため、植物の生育が妨げられている状況もある。

市内の河原は、希少な植物の自生地も少なからずある。これらの植物の保全を踏まえた河原の管理が望まれる。

川に沿った崖線は、ケヤキなどの樹木で覆われ、自然度の高い植生が維持されているところが多く、希少な植物の自生地となっている。市街地に近く、緑地としての価値も高いと考えられるが、急崖地のため、崩落防止の公共工事等の実施も考えられる。市民の安全が第一であることは当然であるが、保全策を念頭に入れた整備が望まれる。

②民有地の植物の保護

市街地に存在する自然地の多くは、土地利用の転換が図られることとなる。かつて市内の桑畑で見かけたキク科のオグルマは、桑畑の減少によりほとんど見られなくなっている。

市街地周辺の農地や山林、傾斜地などの未利用地は、希少植物の自生地となっていることがある。これらの土地に生育する植物は、民有地であることが多いため、今後の土地利用で消失する可能性がある。市民の理解と、公有地化なども視野に入れた対策が望まれる。